

日本生理人類学会誌投稿規程および執筆要項

(2022年8月18日改訂)

はじめに

日本生理人類学会誌（英文名: Japanese Journal of Physiological Anthropology）は、（一社）日本生理人類学会が発行する和文誌で、1996年2月に創刊されました。

（一社）日本生理人類学会は、ヒトの生物学的特性と人類文化の本質とを解明し、ヒトの本質を重視することによって人間生活の改善・向上に資するという共通の認識の下に、人間工学、建築学、医学、生活科学、家政学、健康科学、体育学、生物学、人類学、電子工学、機械工学、デザイン科学、芸術学、心理学など多様な角度からヒトを生理人類学的に科学し、その福祉に貢献する学会です。

日本生理人類学会誌は、このように広い視野からヒトに関わって行われた研究の成果を、日本語で発表する媒体として位置づけられています。とくに環境適応能、機能的潜在性、生理的多型性、テクノアダプタビリティ、全身的協働といった5つのキーワードで示される生理人類学的観点に基づいて得られた知見をまとめた原稿の投稿を推奨しています。

投稿カテゴリー

日本生理人類学会誌は、総説、原著論文、研究報告、短報、技術報告、その他、討議・回答など、多くのカテゴリーに分類される原稿の投稿を受け付けています。下記に本誌で取り扱うカテゴリーと概略を示します。投稿に際し、著者は投稿する原稿にふさわしいカテゴリーを一つだけ選んでください。査読中のカテゴリー変更はできません。

総説

生理人類学に関する諸問題を客観的な資料・考察に基づいて広い視点から論じたものです。

原著論文

独創性と新規性の高い理論的また、は実証的な研究論文です。多くの研究論文はこのカテゴリーとなります。

研究報告

実測・試験・調査等のデータをまとめた研究で、将来的に研究・設計・開発・評価等に有用な資料として参考になるものとします。研究期間や資金が限られている研究者および学生等がこのカテゴリーで投稿することを想定しています。

短報

独創性、緊急性のある萌芽的研究で、発展性の期待できる研究を手短にまとめたものです。

技術報告

新たな手法・実験装置の開発、それらによる有用な結果についてまとめたものです。

その他

トピックス・ノートなど編集委員会で必要性を認めたものです。

討議・回答

上記の各カテゴリーに属する論文に対する質疑、提言等を簡潔に述べたもので、著者は回答の義務を有します。図表を含め刷上り2頁の長さでなければなりません。なお、討議の受付期間は掲載誌発行後1年以内とし、討議・回答の掲載料は無料です。

研究倫理に関する規定

（一社）日本生理人類学会ではヒトを対象とした研究に関して「倫理原則」が定められています（<http://jspa.net/ethical>）。この原則を受け、日本生理人類学会誌へ投稿する論文に記載された研究は人権に最大限配慮するとともに、倫理的配慮がなされていなければなりません。具体的にはヒトを対象とした研究の実施にあたり、ヘルシンキ宣言などの国際指針および所属組織の指針に則ったり、かつ所属機関あるいは関連機関の倫理審査委員会の事前審査を受け、承認を得た倫理審査委員会名および承認番号を論

文に記載してください。なお、倫理審査委員会より審査の非該当と判定された場合には、その旨を記載してください。

実験、観察、調査の実施前には、参加者や患者全員から書面ないしは明示された形で実験・観察・調査への参加の承諾（インフォームドコンセント）を得てください。また、参加者の病歴や遺伝情報を含む個人情報の管理と保護には万全の方策を講じてください。そして論文の『方法』の中で、これらを実施した上で研究を行なったことを書いてください。

詳細は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（2022年3月10日一部改訂）<https://www.mhlw.go.jp/content/000909926.pdf> および同指針に対するガイダンス（同6月6日）<https://www.mhlw.go.jp/content/000946358.pdf> で、ご確認ください。

動物を対象とした研究は、NIH ガイドラインなどの国際指針および所属組織の指針に則り、かつ所属機関あるいは関連機関の倫理審査委員会承認を受けたうえで研究を行なってください。なお、承認を得た倫理審査委員会名および承認番号を論文の中に記載してください。また、実験動物の飼育管理・実験実施に関して、関連法を必ず遵守するようにしてください。論文の執筆にあたり、『方法』の中にこれらを遵守して実施したことを必ず書いてください。特に実験動物の入手先、飼育環境、苦痛の除去（麻酔や手術中のモニターや手術後の処置など）、屠殺方法、その際の薬品名やその投与量・頻度、観察・処置法を具体的かつ詳細に記述してください。

筆頭著者および共著者は投稿論文に対して研究上、明確な役割を果たした方のみとしてください。たとえば研究の総括、計画立案、実施、論文執筆などの貢献があった方が該当します。単に研究費を提供したとか上司であるといった理由では著者として認められません。研究上、明確な役割のない方を著者として加える行為は **gift authorship** となり研究倫理に反することになります。

研究倫理に関して不明な点がある場合、投稿前に和文誌編集委員会において検討いたしますのでメールで相談してください（問い合わせ先：jjpa@jspa.net ←@を一つにしてください）。

二重投稿・二重出版の禁止

日本生理人類学会誌は他の学術雑誌と同様二重投稿・二重出版を認めていません。ただし学会発表やシンポジウム講演などの際に公表した短い発表抄録はこれらに該当しません。

投稿原稿の執筆要項

投稿にあたっては、日本生理人類学会誌原稿送付票（以下、原稿送付票）と日本生理人類学会利益相反自己申告書（以下、利益相反自己申告書）を学会ホームページからダウンロードして記入してください（<https://jspa.net/> →学会誌⇒和文誌）。原稿は A4 サイズで 4 辺に最低 25mm の余白を取って作成します。ファイルのフォーマットは MS-Word と PDF の両形式です。

原稿送付票は、一般投稿に必要な「和文抄録」、「本原稿と生理人類学との関連性」、「査読者の推薦」の3項目に続いて、「1. 表紙」、「2. 英文要旨」、「3. 本文」、「4. 謝辞等」、「5. 利益相反」、「6. 引用文献」、「7. 表」、「8. 図」、「9. 著者紹介（オプション）」の順に連続した頁でファイルに構成してください。

和文抄録は200字程度で記述してください。これは本誌編集委員会が、スムーズな査読者選定を行うために用いるもので、投稿原稿が最終的に受理された場合には、掲載対象とはなりませんのでご留意願います。

本原稿と生理人類学との関連性には、どこに生理人類学的要素（研究視点や対象など）があるのかを記述してください。

可能なら査読候補者を3名まで、推薦理由とあわせてお知らせください。ただし査読者の決定は和文誌編集委員会の判断により行います。

1. 表紙

新規頁から開始し、原稿の投稿区分、題目（和文及び英文）を記述してください。

2. 英文要旨・キーワード

原稿の要旨を英文にて記述ください（100語前後）。投稿前にネイティブチェックを受けてください。英文要旨の最後の部分に3-5個のキーワ

ード（英文および和文）を挙げてください。

3. 本文

本文は新規頁から開始してください。また、左余白に行番号を記してください。原著論文と研究報告は一般的に緒言、方法、結果、および考察で構成されています。

緒言：研究の目的を明らかにし、従来の論文との関連をまとめてください。文献の引用は最も適当なものにとどめてください。

方法：研究方法は、読者がその研究を再現できるように十分に詳しく記述してください。

結果：重要な知見のみを論理が一貫するように本文、表、図中に記述してください。表や図の中に示されているデータを結果の部分で単に繰り返すのは避けてください。

考察：研究で得られた新しくかつ重要な知見を強調してください。得られた知見について、これまでの論文との関係や、その限界について記述してください。前のセクションで述べられたことを繰り返してはいけません。データの範囲を超えて飛躍した結論を述べることは避けてください。また、本文における句読点は「、。」方式に統一します。

4. 謝辞等

著者は研究に対する経済的、およびその他の利害の絡みについて認識し、開示する責任があります。研究に際して、経済的・人的支援、試料・動物等の提供を受けた場合はその旨を記述してください。また、各共著者が本論文に対してどのような貢献をしたのか具体的に書いてください。共著者が投稿時点で死亡している場合は、その旨を書いてください。

5. 利益相反 (Conflict of Interest)

新規頁から開始してください。なお、原稿送付票に記述した内容とは別に、投稿論文に関わる研究に関して、著者全員の利益相反自己申告書が必要となります。フォーマットは（一社）日本生理人類学会ホームページよりダウンロードしてください。

利益相反の有無は研究に対する公平性や客観

性を判断する上で重要です。本文の最後（謝辞等の後）に利益相反がない場合は、『(例) 本論文に関して、開示すべき利益相反はない。』などと宣言してください。利益相反がある場合は、『(例) 本研究を実施するにあたり、○○○○ (著者名) が○○○○ (企業名) から研究費を受けた。』、『(例) ○○○○ (著者名) は、○○○○ (企業名) の社外取締役を務めている。』など具体的に記述してください。

なお、利益相反に関する詳しい情報は（独）日本学術振興会が運営する研究公正に関するホームページをご確認ください（2022年8月18日参照：<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/rinri.html>）。個別の利益相反の事例に関して不明な場合は所属している大学・機関の研究支援部門あるいは法務部門等に相談してください。

6. 引用文献

文献はすでに出版されているか、出版されることを前提として早期公開されているもののみ引用可能です。引用文献は、本文の後に使用順に番号を付け、末尾にまとめて掲載してください。また、本文中の引用箇所を上付き文字¹⁾²⁾で明記してください。引用文献の記述形式は次の通りとします。

雑誌の場合は、著者姓名、論題、雑誌名、巻(号)：最初の頁-最後の頁、西暦年とし、単行本の場合は、著者姓名、書名、出版社、西暦年とする。全文に渡って引用する場合は頁数を記載せず、書籍中の章を引用する場合は、当該章の題目と頁を記載する。

以下に引用文献の例を示します。なお、共著者が10名を超える場合は、最後の著者名の後ろに et al. ないしは「ら」とつけて省略してください。

- 1) 山崎和彦, 那須ゆうみ, 永倉由貴, 前田亜紀子. 通気性の異なるスカートの衣服内気流に及ぼす効果. 日本生理人類学会誌, 26(4): 103-110, 2021
- 2) 安河内朗, 岩永光一. 生理人類学一人の理解と日常の課題発見のために一. 理工図書, 2020
- 3) 環境省環境管理局大気生活環境室. 臭気対策行政ガイドブック. <https://www.env.go.jp/air/akushu/guidebook/full.pdf>, 2020年5月17日参照

- 4) Lee S, Ishibashi S, Shimomura Y, Katsuura T. Effect of simultaneous exposure to extremely short pulses of blue and green light on human pupillary constriction. *J Physiol Anthropol*, 35: 20, 2016
- 5) Takao M, Miyajima H, Shinagawa T. Diurnal modulation of visual motion prediction. *Chronobiology International*, Advance online publication. <https://doi.org/10.3109/07420528.2015.1053564>
- 6) Takao M. Health effects of occupational exposure to LED light: A special reference to plant cultivation works in plant factories. In Kozai, T., Fujiwara, K. Runkle, E. S. (Eds.), *LED Lighting for urban agriculture*. Springer. 429-443. 2016

7. 表

表は新規頁から開始し、本文中で記述した順にアラビア数字で番号を振ってください。表は本文を参照しなくても理解できるようなものでなくてはなりません。説明的な内容は表題にではなく、脚注において行ってください。各々の表で使用された非標準的な略語はすべて脚注において注釈を与えてください。

8. 図

図は新規頁から開始し、表題と説明文は同じ頁に記入してください。全ての図において、本文中でそれらが最初に引用された順番に従って全体を通じて一連番号を振り、それぞれ個別の用紙に記載して投稿してください。最終原稿（掲載原稿）においてカラー図を希望する場合は、投稿時からカラー図を用いてください。図は本文を明確にするための最小限のものに制限されます。これまでに出版された図表は通常受け入れ不能となります。

9. 著者紹介

オプションとして著者紹介を掲載することも可能です。その場合、著者全員の紹介をする必要はありません。なお、著者の写真の掲載は行っておりません。

著者紹介は一人当たり 150 文字以内で記入してください。内容は、氏名、生年、出身地、会員区別（正会員、学生会員、非会員）、所属、職位、連絡先、学歴、卒業・修了年、就任年、学位、学位取得年、経歴、簡単な研究紹介、e-mail アドレスのみとします。氏名は必ずご記入いただきますが、それ以外は上記の項目から必要なものを選んでください。

（例）生理太郎。xxxx 年〇〇県で生まれる。家電メーカー勤務を経て xxxx 年〇〇大学大学院で博士（医学）を取得。〇〇〇〇研究所（博士研究員）を経て、xxxx 年〇〇大学〇〇学部助教就任。xxxx 年から教授。現在、高圧環境下における循環動態に関する生理人類学的研究に従事している。
****@*****.ac.jp

査読システムについて

新規投稿された原稿は編集委員会にて受け付け、その旨、電子メールでお知らせします。ただし、和文誌編集委員会において投稿規程に準じていないと判断された場合、研究の実施に際して研究倫理や関連法令の遵守、そして利益相反に重大な問題があると判断された場合、論文を受け付けません。また、科学論文として大きな欠陥が認められると判断された場合は査読プロセスを経ず掲載拒否とさせていただきます。

原稿を受け付けた後、編集委員会において学会内外から2名以上の査読者を決定し、速やかに single blind で査読（最大3次）が行われます。査読結果は直ちに著者（連絡先）へ電子メールで送付され、補筆のうえ返送していただきます。

原則として、2名の査読者より再査読なしの判定が得られた時点で掲載決定となりますが、最終的な判断は編集委員会が行います。また、掲載順も編集委員会にて決定します。学会誌の発行は原則2、5、8、11月の年4回で、掲載決定から可能な限り直近の学会誌に掲載されます。

投稿先

原稿の投稿は電子投稿とし、原稿送付票と利益相反自己申告書のいずれも、MS-Word と PDF の両形式で保存されたファイルを電子メールに添付し、jjpa@jspa.net（←@を一つにしてください）に送付してください。電子メールの件名

は「新規（筆頭著者名）」としてください。

原稿の投稿に際して連絡著者の責任で、共著者全員から論文の投稿および本誌における出版に関して許諾を得てください。なお、投稿する際のメール本文に『著者全員は本原稿の日本生理人類学会誌への投稿と掲載について承諾している。』と宣言するとともに、著者全員のメールアドレスをカーボンコピー（Cc）に加え、全著者に投稿する旨が伝わっていることが和文誌編集委員会で確認できるようにしてください。もし投稿時点で著者が死亡するなどして本人の意思が確認できない場合は、その旨を表紙の「その他」の欄にご記入ください。

た。その後、冊子体の印刷・発行は24巻4号（2019年）にて終了し、25巻1号（2020年）より電子ジャーナルのみの発行となっております。

採択後の手続き及び掲載料

原稿が採択された場合、編集委員会から組版会社に原稿が送られ、テスト原稿（初稿）を作成します。初稿は責任著者の元へ送られ、修正箇所がないかどうか確認した後、組版会社へ返送願います。この段階での修正は、例えば誤字脱字の修正等、査読内容に触れない程度のものに限定します。なお、著者校正は原則1回だけとします。

掲載料は下表のとおりです。筆頭著者が会員（学生会員含む）の場合と非会員の場合で掲載料が異なります。なお、出版後に掲載料が明記された請求書を送付いたしますので指定された金融機関にお支払いください。

筆頭著者	掲載料
会員（学生会員含む）	1ページにつき5千円
非会員	1ページにつき8千円

著作権

本誌に掲載された原稿の著作権は（一社）日本生理人類学会に帰属します。

備考

本誌は冊子体に加え、2017年から「科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）に電子ジャーナルとして論文を掲載して参りました。